

福祉学習プログラム

Choice !

社会福祉法人 三田市社会福祉協議会

「地域共生社会」の
実現のためには、
誰もが役割を持ち、
お互いが配慮し、
存在を認め合い、
そして時に支え合うことが
求められます。

お互いの存在を認め合うには、
相手だけではなく、
自分の存在をも認める力や
違いがあるからこそ
良いんだということに
気付く力を養うことが大切です。

※知的障害者疑似体験の様子

福祉学習がめざすもの

福祉学習は、講話・体験を通し、老化や障害などによる不便さを単に知るものではなく、誰もが望む本来の福祉「ふだんのくらしのしあわせ」を実現するために、「くらしとは他者との関わりで成り立つこと」「くらしを営むすべての人が社会のかけがえのない存在」であることを知り、一人ひとりが生活に潜む課題を我がごととしてとらえ、考え行動し、地域社会で「ともに生きる力を育む」ことを目指しています。

地域社会で
ともに生きる力を育む



福祉学習のおおまかな流れ

プロセス重視＝「気づき」を大切に

01

ねらいを設定

実施したい内容、目的、ねらいを検討しましょう。

知的障害について
きちんと理解したい

02

社協へ相談

社協へ相談すると、ねらいに適したプログラムの検討ができます！

こんなことを考えているけど、
なにかいい方法はないかな

03

社協より内容の提案・講師の紹介

事前・事後学習を含めてよりよい学習のための提案をします！

ぜひ〇〇作業所との
交流をしてみたい！

04

講師や施設との打ち合わせ

講師や施設と内容について打ち合わせを行いましょう。

打合せすることでこちらの想いも
伝わり、講師の想いも理解できた

05

事前学習

事前の学習をすることで興味や関心を作りましょう。

事前学習することで
意欲がより高まった！

06

福祉学習の実施

当事者との交流、施設見学、各種体験など。

いざ本番！
実際に交流すると色々学べるな！

07

気づき

気づきや考えた事を共有し、話し合しましょう。

感じた事、気付いた事など、
みんなで共有しました

08

事後学習

振り返りを行い、いろんな意見を聞いて、身近な自分たちの地域についても考えてみましょう。

学びを振り返ると、自分達や地域
についても色々発見できる

09

課題の分析

浮かんできた課題を分析してみましょう。

今まで
知的障害の人と関わりが持てな
かったのは、お互いを知らなかった
からか～

10

仮説化

分析した課題から何が必要かを考えてみましょう。

お互い知らないことが課題なら知る
機会を作っていけば良いのかな？

11

再体験

仮説をもとに改めて行動に移してみましょう。

今回縁が出来た〇〇作業所と定期的
に交流会を開催してみたい！

見学・交流

- プログラム① **【地域の施設・事業所について】**
施設はどんなところ？みんなどんな一日を過ごしているの？—— P.3

講話＋交流

- プログラム② **【身体障害について】**
障害があるってどんなこと？自分らしいってどういうこと？—— P.4
- プログラム③ **【視覚障害について】**
目が見えないってどういうこと？ —— P.5
- プログラム④ **【聴覚障害（ろう）について】**
耳が聴こえないってどういうこと？ ※手話体験可 —— P.6
- プログラム⑤ **【聴覚障害（難聴）について】**
難聴ってどういうこと？ ※要約筆記体験可 —— P.7
- プログラム⑥ **【知的障害について】**
知的障害ってどういうこと？—— P.8
- プログラム⑦ **【精神障害について】**
精神障害ってどういうこと？—— P.8

体験（ボランティア活動者による講話あり）

- プログラム⑧ **【車いす体験】**
車いすでも安心できる地域とは？ —— P.9
- プログラム⑨ **【アイマスク体験】**
「見えない」ことから学ぶ、人と地域 —— P.10
- プログラム⑩ **【点字点訳体験】**
見えなくても「わかる」やさしい社会とは？ —— P.11
- プログラム⑪ **【知的障害者疑似体験】**
知ること・感じることから始める大切さ —— P.12
- プログラム⑫ **【絵本の読み聞かせ体験】**
多世代コミュニケーションに求められること —— P.13

その他

- プログラム⑬ **【認知症について学ぼう】**
認知サポーター養成講座 —— P.14
- プログラム⑭ **【地域活動者の講話・交流】**
地域で身近な支え合いについて —— P.14
- プログラム⑮ **【その他】** ※要相談
福祉的当事者との交流、体験、ユニバーサルデザインの見学等 —— P.14

プログラム①
【地域の施設・事業所について】

施設はどんなところ？

みんなどんな一日を過ごしているの？

高齢者・障害者施設、事業所で利用者みなさんと一緒に作業や食事をするなど、交流を通し高齢者・障害者への理解を深め、自分らしい生活への「気づき」と日常生活での「思いやり」の大切さを学びます。また、施設訪問の前に施設職員から施設の説明や、利用者のことについてお話を聞くことも可能です。

※オンラインを活用した施設見学・交流会の実施もご検討いただけます。



施設からのメッセージ

施設は、特別なところではありません。子どもたちにもどんどん来ていただき、施設や利用者さんのことを知って欲しいです。素敵な笑顔に出会ってください。

★障害者の施設別内容については、別冊「施設団体等との福祉学習プログラム」もご参照ください。

小学校の事例紹介

わくわく村を訪問し、障害のある方と一緒に袋詰め作業をしたり、クッキー作りをしたりして、作業所の方との交流をしました。

感想紹介

・クッキー作りは生地をこねて、のばして型で動物を作ったのが楽しかったです。やり方を聞いてやったら簡単でした。わくわく村の人たちは得意なことで分けて仕事をしていたのが分かりました。
・初めて出会う人たちに戸惑う姿も見られましたが、一緒に作業するうちに、小学校では感じられないことを多く感じていたようです。(先生)

プログラム②
【身体障害について】

自分らしいってどんなこと？
障害があるってどういうこと？

身体障害者の日常生活やエピソード、生活の中での困りごとや工夫をお話し（交流含む）します。そして障害のあることで違うこと、あっても変わらないことを感じ取り、一人ひとりが大切な個性である上で、自分らしく生きることのできる社会の大切さを学びます。



小学校の事例紹介

身体障害がある電動車いすユーザーの土田さんに来校いただき日常生活のこと、障害のこと、身体障害をカバーする設備用具などを詳しく伺いました。また土田さんの熱い想いとその想いを実現するためのサポートの力を得ることで、たくさんの問題を乗り越え多くの事にチャレンジしている姿から誰もが前向きに生きていくことの素晴らしさを教えていただきました。

感想紹介

- ・自分だったら諦めてしまいそうなことを土田さんは達成していくのすごいいいと思いました。
- ・電動車いすを初めて見ました。機能がいっぱいあって、値段も高くてびっくりしました。
- ・いろいろと手助けが必要なのでたいへんそうだけど、土田さんが楽しそうにチャレンジしているのが素晴らしいと思いました。
- ・その人が望む手助けが大事だとわかりました。

プログラム③ 【視覚障害について】

目が見えないってどういうこと？

視覚障害者の生活を支える盲導犬の役割や訓練の様子やブラインドサッカーの体験、またバリアフリーやユニバーサルデザインを知ることで、誰にでも安心してやさしい社会を考えます。



小学校の事例紹介

- ・視覚障害・盲導犬ユーザーの齊藤さんから、盲導犬や白杖での生活のこと、外に出た時に困ることなど生活のお話を聞きました。みんなが住みやすい社会の為に自分にできることを考える機会となりました。
- ・パラリンピックのメダリストでもある齊藤さんから、ブラインドサッカーについてお話を聞き、シュートも見せて頂きました。実際に運動場でブラインドサッカーの体験もしました。

感想紹介

- ・齊藤さんの話から諦めないで努力すればきっとできるようになることや、困ったことがあったら、何が困るのかを考えて、できることを自分で考えてやったり、盲導犬に助けてもらったりすればできることを知りました。
- ・盲導犬は色々なことができると思っていたけれど、全部のことができるわけじゃないんだなということがわかりました。ただ盲導犬には色々な役割があるんだなと思いました。
- ・目が見えないとできないことはいっぱいあると思っていましたが、齊藤さんが「できないことは車の運転ぐらい」と話されたのでびっくりしました。
- ・これから困っている人がいたら「手伝いましょうか」と声をかけたいです。
- ・子どもたちは齊藤さんの話から「困難なことに出会ったときには、何が困難なのかを明らかにする。そして工夫の仕方を変えることによって可能性が広がる」という思いを強く持てました。
(先生)

プログラム④
【聴覚障害(ろう)について】

耳が聴こえないってどういうこと？

耳が聴こえないという感覚や日常生活の中での困りごとについて聴覚障害の当事者からうかがいます。また手話体験やクイズを通じて気持ちや考えを伝えあうことの楽しさや大切さ、言語としての手話や手話以外のコミュニケーションの方法を学びます。



事例紹介

- ・講話や手話体験を通して聴覚障害の理解を深めたり、交流体験をすることで新たな課題に気づき自分の生活につなげていく機会となりました。(中学校)
- ・当事者と交流をすることで、共生社会を創っていく一員として必要なことについて考える機会となりました。(中学校)
- ・当事者から暮らしの様子や困りごとなど普段の生活の様子を伺いました。また様々な形のコミュニケーションの交流をしたいと思っています。(小学校)
- ・手話だけでなく身振りや口話など様々なコミュニケーション方法を当事者の方々との交流を通して楽しく学びました。(小学校)



感想紹介

- ・初めて耳が聞こえない人に会って、初めて手話を見ました。耳が聞こえなくても手話があれば話ができると実際に学びました。手話を教えてもらい実際にやってみて、耳が聞こえない人にも「手話をすれば自分の気持ちが伝わるんだ」と思い、なんだかうれしかったです。(中学生)
- ・今日の話を知って、筆談やジェスチャーなども大切だと思いました。指差しも大切です。今後、今日習ったことを活かしたいと思います。(中学生)
- ・最初は音が聞こえない中でどうやって生活しているのかと思ったけれど、色々な工夫があることがわかりました。またお知らせランプのすごさも知りました。(小学生)
- ・手話以外にも自分たちにできることがたくさんあると気づきました。(小学生)
- ・「拍手」の手話を教えていただいてから進んで拍手をし、「自分たちの気持ちを伝えたい」という思いが表れていたように思います。(小学校・先生)

プログラム⑤ 【聴覚障害(難聴)について】

難聴ってどういうこと？

※要約筆記体験可

要約筆記とは、聞こえにくい方に対して、話し手の言葉を文字にしてノートに書いたり、講演会などでスクリーンに映したりして伝える方法です。講話や要約筆記体験を通し、耳が聞こえにくいことでの日常生活の困りごとや、書いて伝えるコミュニケーションの方法を学び、聴覚障害者（難聴者）への理解を深め、「伝える」ことへの「心配り」を学びます。



中学校の事例紹介

講義や要約筆記体験を通して、聞こえにくいことでの日常生活の困り事や、書いて伝えるコミュニケーションを学びました。講師の方から聴覚障害の理解についての講義を受けた後、実際に要約筆記体験を行い、伝えることの難しさについて理解を深めました。

感想紹介

- ・難聴者の方には手話が広く使われているイメージだった。けれども、21%しか使われていないことに驚きました。
- ・要約筆記を体験してみて、聞いたことのどこをどのようにまとめ、どのような言い回しにするのかを即座に判断することは大変であると感じました。
- ・要約筆記には様々な方法があると知り、読み手の年齢や人数、状況に応じてやり方が変わるということを知ることができました。
- ・ゆっくり話すなど、お互いにコミュニケーションを取りやすくする方法は、難聴の方だけでなく日頃から誰にでもしたいと思いました。

プログラム⑥
【知的障害について】

「まわりがみんな自分だったら？」同じ能力、同じ価値観、そして同じ趣味・・・全てが同じだとしたら？当事者・支援者などによる、普段のくらしやお仕事のお話などから、人はそれぞれの個性や役割が違うからこそ輝き、輝き合うからこそ、社会が成り立つことを学びます。

★詳細については別冊「施設団体等との福祉学習プログラム」をご参照ください。



プログラム⑦
【精神障害について】

精神障害、見えづらい、わかりにくいなど、正しい理解がなされていないからこそその偏った見方をされてしまう場合が多くあります。当事者・支援者からのお話を通して、ひとつひとつの正しい知識・理解が、一人ひとりの、その人らしい暮らしにつながることを学びます。

プログラム⑧ 【車いす体験】

車いすでも安心できる地域とは？

段差や坂道、施設内などでの車いす体験を通して、車いすユーザーの体感や生活するうえの工夫や不便さを知り、身体障害者への理解を深め、だれもが暮らしやすい地域について考えます。



小学校の事例紹介

- ・外出支援ボランティア団体「かけはし」さんから車いすの乗降や介助の仕方について教えていただき、校内で実際に車いすを利用する側、介助する側両方の体験をしました。介助をする際には、相手の立場に立って考える「心」が一番大切だということ学びました。
- ・県立人と自然の博物館の協力を得て館内を車いすで移動する体験をしました。車いす利用者が使いやすいような施設や設備のあり方や、実際に車いすを介助するときの声かけや注意などを学ぶことができました。

感想紹介

- ・声かけや動きがむずかしかったけど、車いすの人の立場になるとわかりやすかったです。
- ・下り坂でスピードが出ることがわかりました。
- ・車いすに乗ってみると、ちょっとした段差も大きな揺れになることがわかりました。
- ・歩く時より道が狭く感じ、坂道や段差が怖く、ゆっくりしか進めませんでした。
- ・（自動販売機に）車いすでも押せるボタンがあって、取り出し口も車いすでも取りやすくなりました。
- ・坂道を降りるときに後ろ向きで降りるのはとてもたいへんでした。乗っている側としても押しってもらうのも不安だったので普段車いすに乗っている人はどれだけたいへんかということがよくわかりました。

体験

ボランティア活動者による講話あり

プログラム⑨ 【アイマスク体験】

「見えない」ことから学ぶ、人と地域

目が見えない状態で街を歩いた時、どんなことに困るのか、アイマスクを用い、視覚障害者の手引方法を学び体験し、また当事者の立場で、街を見渡してみることで、安心して暮らすために何が必要か、何ができるのかなど、身近な生活の中から考えます。



小学校の事例紹介

外出支援ボランティア団体「かけはし」さんから、アイマスクのつけ方や手引きするときのポイントなどについてうかがいました。近隣幼稚園の園児も参加しました。

視覚障害のある人にとってどのような声掛けや手引きをしてもらえると安心できるのかを自分で考えながら、目の不自由な人、手引きする人の両方の体験を通して学びました。

感想紹介

- ・顔が見えないので歩くのがすごく怖かったけど、友だちが隣りにいて教えてくれたので助かりました。(幼稚園児)
- ・わかりやすい声かけをしてくれたので、安心して歩けました。(小学生)
- ・目の見えない人に、どんな声かけをしたらいいのかを知ることができました。(小学生)
- ・この学習を通して日常の中でも誰にでも優しい社会にするため自分ができていることを考え、行動できる子たちにしたいです。(先生)

プログラム⑩ 【点字点訳体験】

見えなくても「わかる」やさしい社会とは？

小さな点を組み合わせた「さわる文字」(点字)や点字がついている日用品などを用いたり、点字板を使用したりして、文章を作るなどの点字点訳を通じて、視覚障害者への理解を深め、社会の中の今ある「思いやり」の取り組みを知り、新たな思いやりの築きにつながる視点を育みます。



小学校の事例紹介

講師の方から点字についてお話を伺い、点字版を使って点字を打つ体験をしました。点字点訳体験を通して、点字とは何かを知り、点字は身近なところにあるということ、視覚障害の方にとっての点字の必要性を学びました。

その後、点字版を使って自分の名前を打たせていただきました。



感想紹介

- ・点字を打つ道具を初めて知り、自分の名前が書けてよかったです。
- ・点字は目の見えない人にとって、とても大切だということがわかりました。
- ・点字にとっても興味を持ちました。点字の本を読みたいです。

プログラム⑪
【知的障害者疑似体験】

知ること・感じることから始める大切さ

「はぁ～とポケット」さんが紹介する知的障害の疑似体験を通し、相手を不安にさせない声のかけ方、寄り添い方を学びます。施設・事業所・当事者との交流前の事前学習としてもお勧めです。



★別冊「施設団体等との福祉学習プログラム」をご参照ください。

事例紹介

- ・スライドや体験活動を通して、子どもたちは色々な種類の困り感を体験したり、支え合うことの大切さやみんなが幸せになれる支援について学んだりしました。「みんなちがってみんないいね」という言葉から多様性の良さも感じました。(小学校)
- ・知的障害者のある方たちの困難さの疑似体験や障害者施設の施設長さんから話しを伺いました。実際に体験することで自分事として捉えられるようになり、自分自身のキャリアライフにおいて社会の一員としての意識をもって、地域づくりを担っていける存在として生活できるようにと実施しました。(中学校)

感想紹介

- ・手袋をして折り紙を折るときに、急がされると全然できなかつたけど、優しい言葉を言ってもらえるとできました。(小学生)
- ・ペットボトルを使ってねずみを見つけるのに集中していて、アフロさんがいたことに気づきませんでした。福祉のことをもっと知りたいです。(小学生)
- ・実際に体験したり、話を聞いたりしたことで知らなかったことを知る良い機会になりました。(中学生)
- ・人との話し方、伝え方を見直そうと思いました。(中学生)
- ・誰もが過ごしやすい環境をつくりたいです。(中学生)

プログラム⑫
【絵本の読み聞かせ体験】

多世代コミュニケーションに求められること

それぞれの年代に合った絵本の読み聞かせの手法を学びます。その上で、相手を思い自分で絵本を選び、読み聞かせる体験をし、小さい頃経験した読み聞かせの「心地よさ」を振り返ります。それらの体験を通し、人と人との間に生まれる「心地よさ」がもたらす効果について考え、相手に寄り添い触れ合う心を学びます。



高校での事例紹介

絵本の役割や読み聞かせの意義について学び、知的理解・関心を深め、個人生活から社会福祉に至るまでのあらゆる場面で、読み聞かせの技術を活用できるように学びました。

読み聞かせの大切さについて講義して頂き、その後、実際に講師の方から読み聞かせをしていただきました。注意点を教えて頂いた後、実際に読み聞かせに挑戦する実習を行いました。

感想紹介

- ・絵本は乳幼児と繋がる素晴らしいものだと改めて感じました。
- ・絵本は一方的に話すものではなく、コミュニケーションだと知ることが出来ました。
- ・読み方や心構えについて伝えてくださる言葉が、とても印象的でした。
- ・最後の空白のページや裏表紙まで見せて、もう一度表紙とタイトルを見せて終わることや、アドリブなど、知らなかった読み聞かせのポイントを知ることができてとても良かったです。余白は無駄ではなく、作品の意図に想いを馳せ、聞き手の感情に寄り添う大切なものであることも学びました。
- ・反応を感じながら読むのは楽しそうで、実際に挑戦してみたいと思いました。

プログラム⑬
【認知症について学ぼう】(講話)

認知症サポーター養成講座

認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者のことです。認知症は特別なことではなく、国は、2025年には65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症高齢者であることを発表しています。認知症になっても安心して暮らすことのできる地域について考えます。



感想紹介

- ・認知症については聞いたことがあったけど、そんなに知らなかったの、これからは困っている人がいたら助けていきたいです。(小学生)
- ・もっと世の中の理解が広がり、認知症になっても偏見や誤解のない社会になればいいと思いました。(高校生)

プログラム⑭
【地域で身近な支え合いについて】

ふれあい活動推進協議会や、地域のボランティア活動者との交流、サロン見学などを通し、地域の方が安心して生活するための取り組みを知るとともに、自分自身と地域のつながりに気づき、地域の一員として支え合いの中で生活していることを学びます。

プログラム⑮
【その他】

地域での交流や総合福祉保健センター館内のユニバーサルデザイン見学など、学習の「ねらい」を伺い、検討・提案させていただきます。

福祉機器の貸出し

ボランティア活動センターでは、福祉機器を無料で貸し出します。



車いす 30台
(自走型 24台 / 介助 6台)



アイマスク 150枚



高齢者疑似体験用具 9セット

☆Lサイズ 4セット
☆M/Sサイズ 各1セット
☆子どもサイズ 3セット



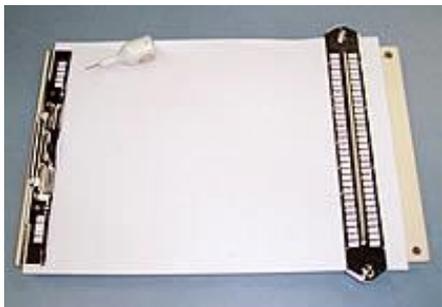
妊婦疑似体験用具 2セット



点字ブロック 1セット

福祉機器の貸出し

ボランティア活動センターでは、福祉機器を無料で貸し出します。



点字板 30台



点字セット 30セット

まなぶ君の点字教室テキスト付



ユニバーサルデザインセット

1セット



ユニバーサルデザイン

教材キット 5セット



視覚障害者体験グラス 5セット

福祉学習のお問合せ先

受付	電話／(FAX)	開所日
三田市ボランティア活動センター (総合福祉保健センター内) vcen@sanda-shakyo.or.jp	564-0410 (559-5945)	年末年始・日を除く 月～金 9:00～17:30 土・祝 9:00～17:00

学校のお近くの生活支援コーディネーター兼
地域福祉支援員へもご相談ください。



小野高平地域福祉支援室 (高平ふるさと交流センター内) o-chiiki@sanda-shakyo.or.jp	560-8177 (560-8178)	※年末年始・土日・祝を除く 全日 9:00～17:30 各市民センター設置の地域福祉支援室は、市民センター休館日は休業し、代わりにその週の土曜日に開所します。 ただし、休館日が祝日の場合は、土曜日は開所しません。
広野本庄地域福祉支援室 (広野市民センター内) h-chiiki@sanda-shakyo.or.jp	560-5822 (560-5823)	
藍地域福祉支援室 (藍市民センター内) a-chiiki@sanda-shakyo.or.jp	568-5400 (568-5405)	
フラワー地域福祉支援室 (フラワータウン市民センター内) f-chiiki@sanda-shakyo.or.jp	550-9008 (550-9009)	
ウッディカルチャー地域福祉支援室 (ウッディタウン市民センター内) w-chiiki@sanda-shakyo.or.jp	553-8373 (553-7023)	

〒669-1514 三田市川除 675 三田市総合福祉保健センター内
三田市社会福祉協議会 三田市ボランティア活動センター

TEL:564-0410 FAX:559-5945
E-mail:vcen@sanda-shakyo.or.jp

開所時間 年末年始・日を除く
月～金 9:00～17:30 土・祝 9:00～17:00

<2024年4月改訂>

